

ダニエル書 - 第二百二十二番

真理の解き明かし：ダニエル書11章と神の民の揺さぶりをめぐる旅

Jeff Pippenger

2024-03-07

終わりの時である1989年に、ダニエル書11章40～45節に関する光の封印が解かれたとき、真理の敵は抵抗を示した。その抵抗を通して神は、ダニエル書のその箇所的基本的前提を擁護するための諸真理を明らかにされ、やがてその前提がサタンの攻撃の主題と焦点となった。あの歴史における真理と誤りをめぐる論争は、聖霊によって用いられ、すでに解き明かされていた知識をさらに増し加え、その後地球の歴史の最後の世代を試すことになる、いくつかの預言の規則を見いだすための手段となった。私たちは「預言の三重適用」について考察しており、その適用を、過ぎし日々にサタンがもたらした抵抗の過程から明らかにされた主要な規則として特定してきた。その論争的な過程は、ホワイ夫人によって「揺さぶり」と呼ばれている。

「私は、神の民の間に働く神の摂理に目を向けさせられ、また、自らキリスト者と称する者たちに加えられる精錬と清めの過程によるあらゆる試練が、ある者たちを滓であることを証明するのだと示された。純金はいつも現れるわけではない。あらゆる宗教的危機において、幾人かは誘惑に屈する。神の揺さぶりは、枯葉のように大勢を吹き払う。繁栄は、信仰を公言する者の群れを増やす。逆境は彼らを教会からふり落とす。総じて、彼らの霊は神の前に堅固ではない。彼らが私たちのもとから出て行くのは、彼らがもともと私たちの者ではないからである。言葉のゆえに患難や迫害が起こると、多くの者がつまづくからである。」『証言』第4巻、89頁。

「揺さぶり」は、ユダ族の獅子によって真理の封印が解かれ、その後それが提示されるときに生じる。

私が見た揺さぶりの意味を尋ねると、ラオデキア人への真の証人の勧告によって引き出される率直な証言が、その原因となるのだと示された。これは受ける者の心に影響を及ぼし、彼をして旗印を高く掲げ、率直な真理を注ぎ出させるように導く。この率直な証言に耐えられない者もいる。彼らはそれに反対して立ち上がり、これが神の民の間に揺さぶりを引き起こすことになる。『初期の著作』271。

「真理」が提示されると、常に動揺が起こる。1989年に封印が解かれたその真理も、まさにそれを引き起こした。真理に対して起こった抵抗がもたらした利点の一つは、1989年以降の年月にわたり知識が増し加わることを確立するための一連の規則が整備されたことだった。その規則の発展は、ミラー派の時代における一連の規則の発展と並行している。聖書の預言のあらゆる三重の適用は、終末の出来事の明瞭さに寄与する。

ローマとバビロンの三重の適用は、日曜法危機の歴史において、女と彼女が騎乗し支配する獣との関係を確認する。この歴史はまた、バビロンの淫婦に対する神の執行の裁きの歴史でもある。

「契約の使者のために道を備える使者」および「エリヤ」の三重の適用は、終わりの時における恩恵期間の終わりを示す二つの時期における働きとメッセージを明らかにする。第一の時期は黙示録18章の第一の声から始まり、これはラオデキア的アドベンティズムに対する生ける者の調査審判の開始を表す。そして最後の時期は黙示録18章の第二の声から始まり、これはバビロンの大淫婦に対する裁きの執行を表す。

ローマとバビロンの三重の適用は、神の終末の民の外的歴史を表し、一方、エリヤと道を備える使者の三重の適用は、神の終末の民の内的歴史を表す。三つのわざわいの三重の適用は、審判の終結期を共に表す二つの期間を貫いて流れるメッセージを明らかにする。その審判の終結期は、まず神の家から始まり、その後神の家の外にいる者たちへと及ぶ。三つのわざわいは、イスラム教が後の雨のメッセージであること、また、太陽礼拝を全人類に強制する者たちに対して神が用いる裁きの道具であることを示す。審判の終わりは、背教した神の教会にも、その教会の外にいる悪しき者にも及ぶ「神の報復の日々」を表している。

イエスが最初にナザレの会堂でご自身の宣教を始められたとき、イザヤ書六十一章を用いて、ご自身の務め、メッセージ、わざを定義された。その中には、神の復讐の時を特定することも含まれていた。彼の務め、メッセージ、わざは、十四万四千人の務め、メッセージ、わざを予表していた。なぜなら、彼らは小羊が行かれるところならどこへでも預言的に従うからである。

主なる神の霊が私の上にある。主が私に油を注ぎ、謙遜な人々に良い知らせを告げさせるためである。主は私を遣わし、心の傷ついた者を癒し、捕らわれ人には解放を、縛られている者には獄の開放を告げさせる。主の恵みの年と、我らの神の復讐の日を告げ、すべての嘆く者を慰めるためである。シオンで嘆く者たちに、灰に代えて麗しさを、嘆きに代えて喜びの油を、重苦しい霊に代えて賛美の衣を与えるためである。こうして彼らは義の木々、主の植えたものと呼ばれ、主が栄光を受ける。彼らは古い荒れ跡を建て直し、昔の荒廃を起こし、多くの代にわたる荒れ果てた町々を修復する。見知らぬ者があなたがたの群れを飼い、異邦人の子らがあなたがたの耕す者、ぶどう畑の世話をする者となる。しかし、あなたがたは主の祭司と呼ばれ、人々はあなたがたを我らの神に仕える者と呼ぶ。あなたがたは異邦人の富を食べ、彼らの栄光の中で自ら誇るようになる。イザヤ書 61:1-6

イエスはバプテスマのときに油注がれたが、その道標は、終わりの時代の後の雨の注ぎがミラー派の歴史によって予表されていたことを認識した者たちの上に聖霊の油注ぎが降り始めた2001年9月11日を予表しており、そのミラー派の歴史は、十四万四千人がエレミヤの古道に立ち返ったのちに再び建て直すことになる昔の荒れ跡であった。

1888年の反逆からのキリストの義のメッセージは、再び現在の真理となり、また、その1888年の反逆からのメッセージは、打ち砕かれた心を包み癒す力をもつ良い知らせであったが、見る目がありながら悟らず、聞く耳がありながら理解しない人々の頑なな心を開くことはできなかった。1888年の反逆からのキリストの義のメッセージはまた、ラオデキヤへのメッセージでもあり、誰にも開けられない扉を開き、誰にも閉じられない扉を閉じる力を持つお方によって、罪のとりこであった者たちの獄の戸を開くために、再び到来した。

2001年9月11日、その良き知らせを告げるべき者たちは、主の恵みの年と神の復讐の日とも宣言すべきであった。その時に主の恵みの年も始まり、アメリカ合衆国で間もなく到来する日曜法によって神の復讐の日が訪れるその時まで、神はラオデキアの者の悔い改めを喜んで受け入れてくださる。そのとき、神の復讐は、神の訪れの時を知ろうとしなかった教会に対して現され、同時に大淫婦バビロンに対する段階的な裁きが始まる。

彼の受け入れの時に、彼は嘆くすべての者を慰めると約束しておられ、エルサレムで嘆く者たちはエゼキエル書9章に描写されている。彼らの慰めは、彼らの上に注がれている後の雨のメッセージを受け入れることを通して、慰め主によってもたらされる。ただし、彼らとその雨を認識した場合に限る。彼らが慰め主を受け、イザヤ書において例示されている「行に行を重ねる」という方法論、すなわち聖なる歴史の荒廃を表す一つの預言の線を、荒廃を示す別の預言の線の上に置くという働きを通して、古い荒れ跡を築き直す働きを成し遂げるなら、その働きにおいて彼らは多くの世代の荒廃を立て直す。そのとき、「異邦人」は、彼らが見るために旗じるしとして掲げられた嘆く者たちに応答する。

イザヤ書六十一章に掲げられているキリストの働きと務めの宣言は、十四万四千人の働きと務めである。その働きは聖なる改革運動において例証されてきた。そして1989年に、これまでのすべての「終わりの時」が予表していた終わりの時が到来した。ひとつの聖句、すなわちダニエル書八章十四節がミラー派運動の基礎であり中心の柱とされたのと同様に、フューチャー・フォー・アメリカの運動の基礎であり中心の柱となる聖句はダニエル書十一章四十節である。ミラー派にとっては、その中心の柱の光はウライ川の幻における光として象徴され、フューチャー・フォー・アメリカの運動にとっては、その中心の柱の光はヒデケル川の幻における光として象徴された。

ダニエルが神から受けた光は、この終わりの時代のために特に与えられたものであった。シナルの大河であるウライ川とヒデケル川のほとりで彼が見た幻は、今や成就しつつあり、予言されたすべての出来事はまもなく成就する。『牧師たちへの証言』112。

二つの川によって表される両方の幻の光は互いに結び合わされ、終わりの日に成就する。その相互の「結びつき」は人間性と神性の結合を表しており、すなわち、人間性が神性と結び合わされるとき人は罪を犯さないという文脈において、ホワイト姉妹が繰り返しキリストのメッセージであると位置づけているものだ。二つの川はまさにその結びつきを表している。

完全な従順以外の何ものも、神の要求する基準を満たすことはできない。神はその要求を曖昧なままにはしておられない。神は、人をご自身と調和させるために必要でないことを何一つ命じてはおられない。私たちは罪人に神の品性の理想を指し示し、この理想にはただキリストの恵みによってのみ到達できるので、彼らをキリストへと導くべきである。

救い主は人間の弱さをその身に負われ、罪のない生涯を送られた。これは、人間性の弱さのゆえに打ち勝てないのではないかと人々が恐れることがないようにするためである。キリストは私たちを「神の性質にあずかる者」とするために来られ、その御生涯は、神性と結び合わされた人間性は罪を犯さないことを明らかにしている。

救い主は、人がどのようにして打ち勝つことができるかを示すために、打ち勝たれた . サタンのあらゆる誘惑に、キリストは神の御言葉をもって立ち向かわれた. 神の約束を信頼することによって、キリストは神の戒めに従う力を受け、誘惑者に付け入る隙を与えなかった. どの誘惑に対しても、キリストの答えは「書いてある」であった. このように神は、私たちが悪に抵抗するための御言葉を与えておられる. 私たちにはこの上なく偉大で尊い約束が与えられており、それらによって私たちは「世にある欲によってもたらされる滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となる」のです. (第二ペテロ1:4)

誘惑に遭っている人には、状況や自己の弱さ、あるいは誘惑の力に目を向けるのではなく、神の御言葉の力に目を向けるよう勧めなさい. その力のすべては私たちのものです. 詩人は言います、「あなたに対して罪を犯さないために、私はあなたの御言葉を心に蓄えました.」 「あなたの御口の言葉によって、私は滅ぼす者の道から自分を守りました.」詩篇119:11、17:4. 『癒しの奉仕』, 181.

1798年と1989年における知識の増加は、神の預言の御言葉の封印が解かれることを表していた. 彼の御言葉は、彼が勝利されたように勝利する力を与え、そして「彼の生涯は、神性と結び合わされた人性は罪を犯さないことを宣言している」. ウライ川の幻は、彼の現れに関する marah の幻であり、それは二千三百日の預言によって表されている. ヒツデケル川の幻は、預言的歴史に関する chazon の幻であり、それは二千五百二十年の預言によって表されている. marah の幻は神性を、chazon の幻は人性を表している.

古代のシナルの二つの川、すなわちウライ川とヒデケル川、あるいは今日ではチグリス川とユーフラテス川として知られている川は、最終的にイラク南部のシャッター・アラブ水路に合流し、そのシャッター・アラブはペルシャ湾に注ぐ. イエスは物質的で自然のものを用いて霊的なものを表し、いま成就の過程にあるこの二つの川に関する幻は、それらが海への旅路の終着にさしかかるときに起こる人間的なものと神的なものの結びつきを表している. この真理は、ダニエル書8章13節と14節に記された二つの幻によって表される二つの預言の冒頭において確立されている. 一方の幻は問いであり、もう一方は答えであり、論理的にそれらは切り離すことができない.

聖所と軍勢が踏みにじられることを示す人性の異象は紀元前677年に始まり、キリストの現れを示す神性の異象は紀元前457年に始まった. 神性と人性の結びつきは、二つの異象の二つの起点を結ぶ二百二十年によって表されている. 二百二十は「人性と神性の結びつき」の象徴であり、1798年の終わりの時における知識の増加と1989年の終わりの時における知識の増加を結びつけることによって表されている.

1798年に知識が増加したことから生じた体系化されたメッセージは、1831年にミラーによって初めて提示され（その後1833年にVermont Telegraph紙に掲載された）. 1831年は、1611年に欽定訳聖書が刊行されてから220年後に当たる. 欽定訳聖書は、旧約と新約から成る二部構成の文書であった. この220年の始まりと終わりは、神的な出版物と人間による出版物を「結び付けた」. 人間による出版物の情報は、1798年の終わりの時に封印が解かれた神の光から導き出され、そしてそれは1831年にそれを公にし始めた人間の器の働きを通して形式化された. それは神的な出版物であり、神によって封印されたメッセー

ジを伴っていたが、その後人類によってその封印が解かれ、その後人間の器によって提示された。神の言葉で「publish」と訳されるヘブライ語は、呼びかける、叫ぶ（…に）、（有名である）、客、招く、言及する、名を与える、説教する、宣言する、発音する、公表する、という意味を持つ。ミラーは1831年に自らのメッセージの公表を始め、1833年には文字通りVermont Telegraph紙に掲載された。

1989年の知識の増加によって導き出された体系化されたメッセージは、1996年に（『The Time of the End』誌で）初めて公表された。これは、1776年の独立宣言（およびその後の1789年の合衆国憲法）として知られる二つの聖なる文書の発表から二百二十年後のことである。二百二十年の始まりと終わりは、神性と人間性を結びつけるものであり、その結びつきは1776年に始まる二つの神的な文書の発表を通してなされる。1989年に終わりの時にダニエル書の封印が解かれたとき、人間の器の働きを通してもたらされたその体系化されたメッセージは1996年に公表された。順序は、神的な発表、次に封印の解除、そして人間による発表であった。

両方の終わりの時において、真理の三段階が示されている。どちらも第一の段階は神の発表から始まり、最後の段階は神のメッセージを説明する人間による発表である。中間の段階は、ユダ族の獅子がその特定の歴史のための神のメッセージの封印を解き、その後、神の文書から解かれた光を集め上げるための人間の器を選ぶときである。封印が解かれると、知識の増加を理解しない悪しき者たちによって反逆が現れる。したがって、神の発表はヘブライ語アルファベットの最初の文字によって表され、知識の増加は反逆が現れる第十三の文字によって表され、その歴史のための特別な神のメッセージに関する人間の発表はヘブライ語アルファベットの最後の文字によって表される。そして、これら三つの文字を合わせると「真理」を意味する。

現在成就しつつあるウライ川とヒッデケル川の幻は、終わりの日に、両者からの知識の増大が一つに合流し、神性と人性が結合したものは罪を犯さないことを証明することを明らかにしている。ダニエルは、ウライ川のほとりにいたとき、1844年に二千三百年の預言が完結する際のキリストの顕現を表す幻を受けた。

私は幻を見た。私が見たとき、私はエラムの州にあるスサの城におり、また幻のうちに見たところ、私はウライ川のほとりにいた。ダニエル書 8:2。

ダニエルはヒッデケル川のほとりにいたとき、二千五百二十年にわたる預言の歴史の幻を表す幻を受けた。

そして第一の月の二十四日に、私は大いなる川、すなわちヒッデケルのほとりにいた。ダニエル10:4。

ガブリエルはその後、第十四節でヒッデケル川に関するハゾンの幻視の目的を明らかにした。

今、私は、後の日にあなたの民に何が起こるかあなたに悟らせるために来た。というのも、この幻はなお多くの日の後のことに関わるからである。ダニエル書 10:14

ウライ川で与えられた幻は、1844年10月22日にキリストが突然ご自身の神殿に来られたときの、キリストの「現れ」（神性）を示している。それは、その日に「神性」がミラー派の神殿（人類）に入ることを表していた。というのも、贖罪日、すなわち「at one-ment」の日は、神性と人性の結合を表しているからである。ヒデケル川で与えられた幻は、終わりの日に神の民（人類）に何が起こるかを示している。

「出現」の幻の始まりは紀元前457年であった。これは、紀元前677年に始まった聖所と軍勢の踏みにじりを指し示す預言の期間から数えて二百二十年後であった。二つの幻の起点で結び付けられていたその二百二十年の終わりは、ハバクク書2章20節の「不思議な言語学者」でもある「不思議な計数者」によって印づけられた。

しかし、主はその聖なる宮におられる。全地よ、その御前に沈黙せよ。ハバクク書2章20節。

当初は二つの預言の起点によって表されていた人間と神との結びつきは、1798年の終わりの時に始まり、46年後の1844年10月22日に終わる四十六年間に建てられた神殿に神性が突然来臨することを記した章と節によって、二つの預言の共通の終わりにおいて確認された。

あなたがたは、自分たちが神の宮であり、神の御霊があなたがたのうちに住んでおられることを知らないのですか。もし誰かが神の宮を汚すなら、神はその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたこそ、その宮なのです。第一コリント 3:16、17

1844年10月22日、「顕現」の幻に一致して、ハバククは主がその聖なる宮におられることを悟った。主は、二千五百二十年のあいだ破壊され踏みにじられていたその宮を、四十六年で再建した。

彼に言え。「万軍の主はこう言われる。『見よ、その名を「若枝」という人がいる。その人はその所から生え出て、主の宮を建てる。まことに彼こそ主の宮を建て、栄光を帯び、自らの王座に着いて治める。彼はその王座にあって祭司ともなり、この二人の間には平和のはかりごとがある。』その冠は、ヘルム、トビヤ、エダヤ、またゼパニヤの子ヘンの記念として、主の宮に納められる。遠くにいる者たちが来て、主の宮の建築に携わる。こうして、万軍の主が私をあなたがたに遣わされたことを、あなたがたは知るようになる。あなたがたの神、主の御声に努めて従うなら、このことは成就する。」ゼカリヤ書 6:12-15。

ヨハネ2章20節において、キリストが神殿を清められた後（ホワイト夫人によれば、これは1844年10月22日の場合と同様に、マラキ書3章の成就であった）、契約の使者は突然ご自分の神殿に来られた。

イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしなさい。わたしは三日でそれを建て直す。」そこでユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかったのに、あなたは三日でそれを建てるのか。」しかし、彼が言っていたのはご自分のからだという神殿のことだった。ヨハネによる福音書 2:19-20。

マラキ書3章の成就として、キリストは公生涯の初め、ヨハネによる福音書2章に記された宮清めのときに、突如としてご自分の宮に来られた。それは1844年10月22日の型であった。ヨハネ2章におけるキリストによる宮清めと1844年10月22日は、どちらもマラキ書3章の成就であった。ヨハネ2章20節では、人間の宮は四十六年かけて建てられ、神の宮は三日で建て上げられたと告げられている。人間の宮がハバクク書の「聖なる宮」となるのは、神性がそこに突如として臨むときだけである。1844年10月22日にそうであったように、神性が人性と結び合うときには罪は犯されない。シナルの二つの大河の幻は、人性が神性と結び合うときには罪を犯さないという真理を表している。

次の記事で、ダニエル書11章40節の考察を続けます。

あなたがたも、生ける石のように、霊的な家に建て上げられ、聖なる祭司として、イエス・キリストによって神に受け入れられる霊的ないけにえをささげるためである。
第一ペテロ 2:5。